

二〇一九年二月二三日

墨痕が浮く高札や館小春
磨崖仏光背の如冬日射す
川跨ぎ巡る古町小六月
還曆会へひと駅紅葉見て歩く

明日香
愛正
せいじ
なつき

二〇一九年二月二日

人寄するからくり時計駅小春
寧かれと紅葉且つ散る無縁墓
手づくり市立つ境内や冬ぬくし
ひつぢ田の果てなき向ふ高嶺晴

やよい
こすもす
なつき
もとこ

二〇一九年二月二〇日

古民家の裏庭に楚とお茶の花
渺渺と枯尾花揺れ阿蘇五岳
柿吊るす旧街道の虫籠窓
笑み湛ふ十六羅漢紅葉晴

ぼんこ
宏虎
うつき
やよい

二〇一九年二月一九日

岩に彫る十六羅漢紅葉燃ゆ
三輪山の丸き稜線冬うらら
银杏散る村一番の大構
茶の花や質素を旨とせし旧家
家温し大國柱黒々と
冷える夜の人形踊る時計台

やよい
明日香
菜々々
うつき
はく子
素秀

二〇一九年二月一八日

色褪せて退院を待つ冬帽子
匂ひ濃し明日は解かるる菊人形
櫻通り银杏通りと落葉踏む
冬うららりハビリ終へて足軽ろし

うつき
なつき
菜々々
満天

二〇一九年二月一七日

雑炊に散らして京の冬菜かな
住職を囲む村の子落葉焚
二〇一九年二月一六日

たか子
智恵子

鳴き砂の音も冷たし浜散歩
一穢なき御座所の庭の冬紅葉
被災地に想ひを馳せて林檎煮る
庭に咲く冬菊も足し今朝の供花
姿見に満面の笑み七五三
神留守の賽銭箱に合せ錠

素秀
うつき
たか子
菜々々
ぼんこ
うつき

毎日句会みのる選・二〇一九年二月二四日